

検診を準備される自治体肺がん検診業務担当のみなさまへ（ご依頼）
－住民対象の低線量肺がんCT検診における留意点－

米国のくじ引き割付試験*で、肺がん死亡率減少に効果ありとの結果を受けて、世界中で低線量肺がんCT検診実施の機運が高まっております。テレビや新聞・雑誌等のメディアにおいてCT検査による肺がん早期発見の話題が取り上げられ、一般住民のみなさまにも、肺がんの早期発見にはCT検査が必要という認識が広まっております。

自治体の実施する肺がん検診においても、低線量肺がんCT検診を実施するところが徐々に増えております。一方、健康な住民のみなさまへの検診サービスですので、通常の一般医療における診断用CT検査と同等の被ばく線量による検査は許容できるものではありません。

『低線量』（低被ばく）は肺がんCT検診の大前提となります。低線量とは、通常診断用CT検査の1/10程度をいいます。

日本CT検診学会のサイト**では、すでに参照可能ですが、被ばくの少ない低線量での検査とすることを前提に実施計画を策定ください。また、現在、通常診断用CT線量で検査されている場合は速やかに『低線量』（低被ばく）に変更してください。

低線量肺がんCT検診を受診する一般の方々にぜひ理解しておいて欲しい重要なチェックポイントは以下のとおりです。是非とも検診実施計画策定前に担当診療放射線技師・医師と相談のうえ、受診者への説明内容を確認してください。

【チェックポイント】

- 検診の目的
- 低線量肺がんCT検診のこれまでの成績
- 検診の方法
- 当該検診の費用（精密検査の費用まで）
- 低線量肺がんCT検診で予想される利益
- 低線量肺がんCT検診で予想される不利益

そのほか、受診者に対して肺がん以外の疾患が発見される可能性や、頻度は少ないものの、検診で早期のうちに発見することが難しい肺がん（発育速度の速い小細胞肺がん）などについて、受診者に理解しやすく説明しているかについてもチェックしてください。

以上の内容は検診を受診する住民のみなさまに情報開示して納得の上、低線量肺がんCT検診を受診されるようにしてください。

ちなみに米国・連邦政府の公的医療保険制度であるメディケア・メディケイドにおいても低線量肺がんCT検診が導入されましたが、その検診受診資格要件は以下3つになります。

- ・ 55歳～77歳
- ・ 呼吸器症状がない（血痰やせきなど肺や気管支の症状がない）

・タバコ一箱 30 年以上喫煙歴を有する現在喫煙者および禁煙 15 年未満の者

この検診を診断する医師も専門医に規定され、受診希望者は、医師と十分に相談して検査によるリスクなども了解の上で検査受診すること（インフォームドコンセント）、撮影条件も米国人の標準体型で CT の線量指数（CTDIvol）が 3 mGy 以下の低線量を遵守させるなど、かなり厳格なものになっております。

*

<http://www.acraccreditation.org/~media/Documents/LCS/Lung-Cancer-Screening-Technical-Specifications.pdf?la=en> (Accessed 2, 1, 2016)

**

<http://www.jscts.org/>

2016年3月
日本CT検診学会
理事長 中川 徹